



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月14日

上場会社名 昭和ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5103 URL http://www.showa-holdings.co.jp
 代表者 (役職名)代表執行役社長 (氏名)重田 衛
 問合せ先責任者 (役職名)執行役財務総務担当 (氏名)庄司 友彦 (TEL)04(7131)0181
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|-------|------|------|-------|------|-------|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 27年3月期第2四半期 | 4,892 | 13.4 | △32 | — | 9 | △96.3 | △19 | — |
| 26年3月期第2四半期 | 4,313 | 21.6 | 210 | △40.0 | 255 | △31.4 | 62 | — |

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 547百万円 (87.3%) 26年3月期第2四半期 292百万円 (799.3%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 27年3月期第2四半期 | △0 43 | — |
| 26年3月期第2四半期 | 1 34 | 1 04 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|--------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 27年3月期第2四半期 | 32,693 | 14,042 | 17.8 |
| 26年3月期 | 26,046 | 13,127 | 22.0 |

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 5,830百万円 26年3月期 5,740百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 26年3月期 | — | 0 00 | — | 0 00 | 0 00 |
| 27年3月期 | — | 0 00 | — | — | — |
| 27年3月期(予想) | — | — | — | 0 00 | 0 00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|------|------|-------|------|-------|-------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 10,500 | 20.6 | 190 | △54.0 | 240 | △50.2 | △40 | — | △0 86 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規1社(社名)Thanaban Co.,Ltd.、除外1社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|----------|-------------|----------|-------------|
| 27年3月期2Q | 46,958,026株 | 26年3月期 | 46,958,026株 |
| 27年3月期2Q | 441,784株 | 26年3月期 | 440,944株 |
| 27年3月期2Q | 46,516,725株 | 26年3月期2Q | 46,518,136株 |

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 4 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 5 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 5 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 5 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 5 |
| (4) 追加情報 | 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| 四半期連結損益計算書 | 8 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 9 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 10 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 12 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 12 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 12 |
| (セグメント情報等) | 12 |
| (企業結合等関係) | 14 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは当第2四半期連結累計期間においては、増収減益となりました。売上高は4,892,459千円（前年同期比13.4%増）、営業損失が32,470千円（前年同期は営業利益210,205千円）、経常利益は9,412千円（前年同期比96.3%減）、四半期純損失が19,869千円（前年同期は四半期純利益62,460千円）となりました。

売上高の増加はファイナンス事業のタイ王国およびカンボジア王国における営業貸付金の増加によるものです。

営業損失の原因は当社の創業事業であるゴム事業が以前より改善されたとはいえ、長期的な赤字状況を完全には脱しておらず、唯一の営業赤字事業となっていることが要因です。また、昨年対比を見るとファイナンス事業において、世界経済の成長鈍化とタイ王国において政情不安が発生するとともに、景気停滞が発生したことから貸倒引当金等を積み増したことや、ASEAN全域に、新規のファイナンス商品を次々に展開したことから投資的費用が発生し、利益が低下しました。

その一方、日本国内のコンテンツ事業は事業再編が進み、新事業が好調であった結果、売上高こそ10.9%の成長でしたが、セグメント利益が28.2%増と大きく成長しました。

当第2四半期連結累計期間におけるマクロ経済は、世界経済成長の鈍化、タイ国内経済の停滞、カンボジア王国ならびにタイ王国周辺諸国においては力強い成長、ならびに日本国内においては消費税増税に伴う景気の上下動が激しい期間となりました。今後は世界経済においてはアメリカ合衆国をはじめ回復傾向がみられます。また、タイ王国においては5月22日の政変によって、長きにわたった政治的不安定性が解消され、強く景気の上振れ要因として発現すると実感され、マクロ的な不安要因が減少しつつあります。また、当連結会計年度から連結されますThanaban Co.,Ltd.の収益が来期には大きく貢献すると考えられるとともに、カンボジア王国における事業も利益化を果たしており急成長しております。同時に今後とも、大きな飛躍に向け短期的収支の増大よりも将来の事業拡大に向けて積極的に投資を推し進めていく方針です。

日本国内においては、スポーツ事業において競争の激化が見られるものの、4月1日より卓球業界に公認メーカーとして参入しており、日本国内に留まらずスポーツ事業領域の拡大及び海外展開を目指しております。コンテンツ事業においては、数年前から立ち上げた新規事業をスピンオフして育成してまいりましたが、これを新規に事業部として立ち上げることを発表しておりますように、積極的にビジネス拡大に舵を切っており、今後、アジア全域に展開してまいります。

また、ゴム事業においては、固定費の逓減を図るとともに、7月14日をもってビジネス領域ごとに特化したビジネスユニットを編成し、シームレスかつスピーディーにサービスを提供できる組織体制に再編しております。以上のように、当社グループの掲げる中期経営計画「アクセルプラン2012」に定めた方針に基づき事業展開を加速しております。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(ファイナンス事業)

ファイナンス事業の当第2四半期連結累計期間における業績は、増収であったものの減益となりました。

ファイナンス事業は、①のタイ王国国内の政情不安が2013年9月より2014年5月末まで継続したこと、②のタイ王国大洪水復興需要が2012年に一巡し、世界経済成長の減速が2013年中頃から始まったことなど、①、②の影響をまさに受けた期間となりました。また、カンボジア王国での新車オートバイリース事業を積極展開、新規に農業機械リースへの進出、その他のASEAN諸国への事業展開などに加え、平成26年6月18日に発表しましたとおり、タイ王国の同業オートバイリース会社であり、タイ王国国内シェア5位と推定されるThanaban Co.,Ltd.の買収をいたしました。また買収後同社の構造改革ならびに、タイ国内における新事業としてM4C事業や中古車リースなどを開始しており、このような中長期的成長のための投資的開拓活動を活発に行ってまいりました。

当事業は、タイ証券取引所一部に上場する連結子会社のGroup Lease PCL.が営むオートバイファイナンスを中心とし、審査や回収のノウハウに独自性を持ち、現在ではカンボジア王国を起点にASEAN全域への展開を目指しております。また、タイ王国国内で大型買収を実行し、タイ王国国外で積極的な事業活動を展開するための投資的施策を実行してまいりました。タイ王国国内では経済情勢と政治情勢に対応して、前連結会計年度の終盤よりリスクマネージメントを重視しており、営業拡大を抑制しております。

上記のように、ASEAN全域展開を含め、タイ王国国内での大幅な飛躍のために、人件費の増加、先行投資的な費用、買収関連費用などを投下いたしました。これらは事業成長のために必要不可欠な投資であると考えており、着実に成果を上げつつあると考えております。

これらの諸活動の結果、売上高は2,930,758千円（前年同期比22.6%増）、セグメント利益（営業利益）は88,109千

円(前年同期比77.7%減)となりました。

(スポーツ事業)

当事業は、当社連結子会社であります株式会社ルーセントが「スポーツコミュニティを元気にする」事を使命とし取り組んでおります。

ソフトテニスボールにおいては、競争環境に激化の兆しがみられましたが、キャンペーン等を精力的に実施し、予定を超えて売上高は前年同期を上回りシェアを拡大することができました。ルーセントウェア等の商品においても、プロモーター事業としてスポーツコミュニティを活性化するために「喜び」・「元気」を提供する活動を続けた事で増収に繋げることができました。また、ルーセントテニスクラブ事業においては大きく新規顧客を獲得し、前年同期を上回る売上と利益を確保いたしました。

更に、新規事業として、平成26年4月1日より卓球業界にウェア公認メーカーとしての参入を果たし、日本国内に留まらずスポーツ事業領域の拡大及び海外展開を目指してまいります。

これらの諸活動の結果、売上高は765,021千円(前年同期比2.5%増)となりましたが、キャンペーン費用等の一時的なコスト増により、セグメント利益(営業利益)は128,406千円(前年同期比5.1%減)となりました。

(コンテンツ事業)

コンテンツ事業は、増収増益となりました。これは過去進めてきた営業改革、新規事業立ち上げが功を奏し、売上高が増加したことによるものです。

当事業は、主にトレーディングカードゲーム制作やエンターテインメント関連の書籍及び電子書籍の制作、音楽及び関連商品の製作を行っており、様々なコンテンツを商品化する企画制作、編集、制作に独自性を持ち展開しております。

売上高については、カードゲームのロイヤリティ収入が低調となったものの、当社の強みを活かしたスピンオフ事業であるカードゲーム事業が、既に事業部に昇格するまでに成長し、事業ポートフォリオの入れ替えが進んだ結果、大幅なセグメント利益拡大となりました。

これらの諸活動の結果、売上高は312,213千円(前年同期比10.9%増)、セグメント利益(営業利益)は60,188千円(前年同期比28.2%増)と増益となりました。

(ゴム事業)

当事業は、当社の創業以来の事業であり、当社連結子会社であります昭和ゴム株式会社ならびにマレーシア連結子会社のShowa Rubber (Malaysia) Sdn. Bhd. が営む、ゴムの配合・加工技術に独自性を持つ事業であります。

当グループの中で、当事業は日本のマクロ経済の推移と連動した売上推移を見せる事業であり、アベノミクスによる民間投資活性化が期待される所でしたが、まだまだ官民の設備投資の低迷が続いており、経営環境の好転は見られませんでした。

このような中、プラント設備に関連するゴムライニングでは、現地工事のスピード対応が奏功し、メンテナンスを軸に受注確度が好転した結果、前年同期を上回る実績を残すことができましたが、工業用ゴム製品等の受注高が減少し、食品医療用品等に関しては前年同期を上回ったものの、一部新規商品の開発遅れにより売上予算を下回る状況となりました。

なお、継続的に取り組んでまいりました変動費・固定費等の圧縮によって、前四半期に引き続き損益分岐点が低下しており、損益は改善いたしました。

これらの諸活動の結果、売上高は836,976千円(前年同期比0.3%減)、セグメント損失は19,999千円(前年同期はセグメント損失47,059千円)となりました。

また、当事業は、本年7月14日をもってビジネス領域ごとに特化したビジネスユニットを編成したことで、様々な面で経営判断のスピードを速めており、ユニット毎に一体型の営業活動によって顧客密着度を高め、新規製品の営業、開発に注力してまいります。

以下の事業は持分法適用関連会社が営む事業であり当社のセグメントではありません。

(食品事業)

当事業は、当社持分法適用関連会社であります明日香食品株式会社並びに同子会社グループが営む、和菓子等、とりわけ大福もち等の餅類、団子類、などの開発製造に独自性を持つ事業であります。もち、団子に集中し、東日本事業部を中心に売上を大幅に増加させつつあります。なお、当事業は持分法適用関連会社が営む事業のため、売上高、営業利益等は当社連結業績に直接取り込まれるものではありません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産残高は、32,693,768千円（前連結会計年度末比6,647,429千円増）となり、流動資産は、25,484,949千円（前連結会計年度末比6,293,372千円増）、固定資産は、7,208,819千円（前連結会計年度末比354,057千円増）となりました。

流動資産増加の主な原因は、連結子会社のGroup Lease PCL. が営むオートバイファイナンスの新規契約数増加及びThanaban Co.,Ltd. の株式を新規取得し連結子会社としたことに伴う営業貸付金の増加（前連結会計年度末比6,354,043千円増）であります。

固定資産増加の主な原因は、連結子会社のGroup Lease PCL. によるThanaban Co.,Ltd. の株式を新規取得したことによるのれんの増加（前連結会計年度末比135,707千円増）及びThanaban Co.,Ltd. を連結子会社としたことに伴う無形固定資産その他の増加（前連結会計年度末比115,783千円増）であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債残高は、18,651,618千円（前連結会計年度末比5,733,104千円増）となり、流動負債は、12,062,775千円（前連結会計年度末比5,242,236千円増）、固定負債は、6,588,842千円（前連結会計年度末比490,867千円増）となりました。

流動負債増加の主な原因は、連結子会社であるGroup Lease PCL. による短期借入金の増加（前連結会計年度末比4,349,592千円増）及び貸出コミットメント契約等に基づく1年内返済予定長期借入金の増加（前連結会計年度末比853,035千円増）であります。

固定負債増加の主な原因は、連結子会社であるGroup Lease PCL. の貸出コミットメント契約等に基づく長期借入金の増加（前連結会計年度末比379,816千円増）によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産残高は、14,042,150千円（前連結会計年度末比914,325千円増）となりました。

純資産増加の主な原因は、為替換算調整勘定の増加（前連結会計年度末比67,508千円増）及び少数株主持分の増加（前連結会計年度末比819,188千円増）であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期通期の業績予想につきましては、平成26年11月14日に公表いたしました「【特別利益】持分変動利益の発生、及び、平成27年3月期第2四半期累計期間連結業績予想値と実績値の差異、並びに平成27年3月期（連結）通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるGroup Lease PCL. はThanaban Co.,Ltd.の株式を取得しております。これに伴い、Thanaban Co.,Ltd.を連結子会社にしております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

前連結会計年度において、「固定負債」の「その他」に含めていた連結子会社に係る「退職給付に係る負債」は、金額的重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定負債」の「その他」に表示していた59,687千円は、「退職給付に係る負債」16,358千円、「その他」43,329千円として組替えております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,775,402 | 1,903,668 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,132,251 | 1,044,388 |
| 営業貸付金 | 15,883,273 | 22,237,317 |
| 商品及び製品 | 248,958 | 270,328 |
| 仕掛品 | 178,563 | 157,294 |
| 原材料及び貯蔵品 | 107,624 | 129,033 |
| 未収入金 | 341,486 | 518,094 |
| 短期貸付金 | 272,688 | 277,329 |
| 繰延税金資産 | 200,138 | 323,831 |
| その他 | 348,165 | 391,130 |
| 貸倒引当金 | △1,296,976 | △1,767,468 |
| 流動資産合計 | 19,191,576 | 25,484,949 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 222,719 | 224,609 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 57,901 | 53,915 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 35,977 | 73,026 |
| 土地 | 2,168,599 | 2,176,515 |
| リース資産(純額) | 3,826 | 7,034 |
| 建設仮勘定 | 790 | 36,943 |
| 有形固定資産合計 | 2,489,814 | 2,572,045 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 585,132 | 720,840 |
| その他 | 336,686 | 452,470 |
| 無形固定資産合計 | 921,819 | 1,173,311 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 21,727 | 25,281 |
| 関係会社株式 | 2,344,965 | 2,340,453 |
| 長期貸付金 | 708,239 | 693,219 |
| 長期未収入金 | 194,889 | 183,190 |
| 破産更生債権等 | 1,622,121 | 1,791,228 |
| 差入保証金 | 138,993 | 147,539 |
| 繰延税金資産 | 49,400 | 84,125 |
| その他 | 80,976 | 77,503 |
| 貸倒引当金 | △1,718,184 | △1,879,078 |
| 投資その他の資産合計 | 3,443,128 | 3,463,463 |
| 固定資産合計 | 6,854,762 | 7,208,819 |
| 資産合計 | 26,046,339 | 32,693,768 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 392,603 | 429,124 |
| 短期借入金 | 3,340 | 4,352,932 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 5,620,829 | 6,473,864 |
| 1年内償還予定の社債 | 20,000 | 20,000 |
| 未払法人税等 | 261,512 | 33,842 |
| 未払消費税等 | 19,788 | 7,206 |
| 未払費用 | 209,452 | 224,602 |
| 賞与引当金 | 64,210 | 153,594 |
| その他 | 228,802 | 367,608 |
| 流動負債合計 | 6,820,538 | 12,062,775 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 1,582,864 | 1,691,034 |
| 長期借入金 | 3,053,004 | 3,432,821 |
| 繰延税金負債 | 11,769 | 29,960 |
| 退職給付に係る負債 | 538,466 | 518,863 |
| 資産除去債務 | 158,138 | 159,718 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 708,963 | 708,963 |
| 負ののれん | 1,439 | 479 |
| その他 | 43,329 | 47,000 |
| 固定負債合計 | 6,097,975 | 6,588,842 |
| 負債合計 | 12,918,514 | 18,651,618 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,036,941 | 4,036,941 |
| 資本剰余金 | 1,000,627 | 1,000,627 |
| 利益剰余金 | △873,449 | △893,319 |
| 自己株式 | △23,311 | △23,367 |
| 株主資本合計 | 4,140,808 | 4,120,881 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 410 | 1,927 |
| 土地再評価差額金 | 1,294,890 | 1,294,890 |
| 為替換算調整勘定 | 387,380 | 454,889 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △83,454 | △41,727 |
| その他の包括利益累計額合計 | 1,599,226 | 1,709,979 |
| 新株予約権 | 105,605 | 109,915 |
| 少数株主持分 | 7,282,184 | 8,101,373 |
| 純資産合計 | 13,127,824 | 14,042,150 |
| 負債純資産合計 | 26,046,339 | 32,693,768 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日) |
|-------------------|---|---|
| 売上高 | 4,313,435 | 4,892,459 |
| 売上原価 | 1,901,448 | 2,064,000 |
| 売上総利益 | 2,411,987 | 2,828,458 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,201,781 | 2,860,929 |
| 営業利益又は営業損失(△) | 210,205 | △32,470 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 21,304 | 21,067 |
| 受取配当金 | 331 | 447 |
| 有価証券評価益 | 427 | - |
| 持分法による投資利益 | - | 46,946 |
| 貸倒引当金戻入額 | 10,920 | 8,000 |
| その他 | 33,621 | 21,532 |
| 営業外収益合計 | 66,605 | 97,994 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 2,653 | 1,659 |
| 社債利息 | 538 | 45,062 |
| 為替差損 | 2,335 | 1,355 |
| 訴訟関連費用 | 8,262 | 3,347 |
| 持分法による投資損失 | 1,607 | - |
| その他 | 5,499 | 4,686 |
| 営業外費用合計 | 20,896 | 56,110 |
| 経常利益 | 255,914 | 9,412 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | - | 238 |
| 持分変動利益 | 74,411 | 47,180 |
| 負ののれん発生益 | 181,307 | - |
| 特別利益合計 | 255,718 | 47,418 |
| 特別損失 | | |
| 和解金 | 8,000 | - |
| 持分変動損失 | 4,988 | - |
| 固定資産処分損 | 0 | 0 |
| 特別損失合計 | 12,989 | 0 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 498,643 | 56,831 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 246,682 | 79,942 |
| 法人税等調整額 | △120,327 | △41,667 |
| 法人税等合計 | 126,354 | 38,274 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 372,289 | 18,556 |
| 少数株主利益 | 309,828 | 38,426 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 62,460 | △19,869 |

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 372,289 | 18,556 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,210 | 1,517 |
| 為替換算調整勘定 | △162,582 | 511,483 |
| 退職給付に係る調整額 | - | 41,727 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 81,345 | △25,827 |
| その他の包括利益合計 | △80,026 | 528,900 |
| 四半期包括利益 | 292,262 | 547,457 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 119,366 | 90,225 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 172,896 | 457,231 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

| | (単位：千円) | |
|--------------------------|---|---|
| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 498,643 | 56,831 |
| 減価償却費 | 46,228 | 74,124 |
| 負ののれん発生益 | △181,307 | - |
| のれん償却額 | 15,898 | 18,404 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | 511,743 | 84,007 |
| 退職給付引当金の増減額(△は減少) | △10,483 | - |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | - | 20,806 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | 42,974 | 81,471 |
| 受取利息及び受取配当金 | △21,635 | △21,514 |
| 支払利息 | 2,653 | 1,659 |
| 社債利息 | 538 | 45,062 |
| 為替差損益(△は益) | △20,590 | 850 |
| 持分法による投資損益(△は益) | 1,607 | △46,946 |
| 有価証券評価損益(△は益) | △427 | - |
| 有形固定資産売却損益(△は益) | - | △238 |
| 持分変動損益(△は益) | △69,423 | △47,180 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 245,115 | 88,268 |
| 営業貸付金の増減額(△は増加) | △2,786,992 | △354,548 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | △116,532 | 9,000 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | 33,382 | 34,331 |
| その他 | △23,512 | △193,909 |
| 小計 | △1,832,120 | △149,522 |
| 利息及び配当金の受取額 | 13,192 | 17,146 |
| 利息の支払額 | △2,320 | △33,395 |
| 法人税等の支払額 | △304,604 | △321,467 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △2,125,852 | △487,238 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △16,000 | △6,001 |
| 定期預金の払戻による収入 | 6,000 | 6,000 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △33,841 | △76,375 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 15 | 265 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △1,791 | △12,441 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △1,197 | △1,206 |
| 関係会社株式の取得による支出 | △100,817 | - |
| 貸付金の増減額(△は増加)(純額) | △278,534 | 21,821 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 | △196,893 | △1,816,718 |
| 差入保証金の増減額(△は増加) | △196,120 | 665 |
| その他 | 26,548 | 22 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △792,630 | △1,883,968 |

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日) |
|----------------------|---|---|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | △14,864 | 1,385,000 |
| 長期借入れによる収入 | 4,289,250 | 3,685,400 |
| 長期借入金の返済による支出 | △2,328,975 | △3,089,980 |
| 社債の発行による収入 | - | 4,830 |
| 社債の償還による支出 | △10,000 | △10,000 |
| 自己株式の取得による支出 | △54 | △41 |
| 少数株主からの払込みによる収入 | 860,573 | 553,381 |
| 少数株主への配当金の支払額 | △330,729 | △111,425 |
| ファイナンス・リース債務の返済による支出 | △373 | △547 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 2,464,828 | 2,416,618 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △43,891 | 82,875 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △497,545 | 128,287 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,471,675 | 1,746,802 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 974,130 | 1,875,089 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | |
|---------------------------------|-----------|---------|---------|---------|-----------|
| | ファイナンス事業 | スポーツ事業 | コンテンツ事業 | ゴム事業 | 計 |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,391,021 | 746,089 | 281,641 | 839,695 | 4,258,448 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 2,391,021 | 746,089 | 281,641 | 839,695 | 4,258,448 |
| セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△)) | 395,915 | 135,282 | 46,960 | △47,059 | 531,098 |

| | その他 (注1) | 調整額 (注2) | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注3) |
|---------------------------------|-------------|-------------|-------------------------------|
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 54,987 | — | 4,313,435 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 77,640 | △77,640 | — |
| 計 | 132,627 | △77,640 | 4,313,435 |
| セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△)) | △137,455 | △183,436 | 210,205 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、親会社によるグループ統括事業・投資育成事業・事業開発事業等業績数値であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△183,436千円には、全社費用△288,122千円、その他の調整額104,685千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

ファイナンス事業において、GL Finance PLC. の株式を新規取得いたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては145,394千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

ファイナンス事業において、Group Lease PCL. の株式を追加取得しております。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては181,307千円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | |
|---------------------------------|-----------|---------|---------|---------|-----------|
| | ファイナンス事業 | スポーツ事業 | コンテンツ事業 | ゴム事業 | 計 |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,930,758 | 765,021 | 312,213 | 836,976 | 4,844,969 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 2,930,758 | 765,021 | 312,213 | 836,976 | 4,844,969 |
| セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△)) | 88,109 | 128,406 | 60,188 | △19,999 | 256,703 |

| | その他 (注1) | 調整額 (注2) | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注3) |
|---------------------------------|-------------|-------------|-------------------------------|
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 47,490 | — | 4,892,459 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 87,900 | △87,900 | — |
| 計 | 135,390 | △87,900 | 4,892,459 |
| セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△)) | △110,726 | △178,447 | △32,470 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、親会社によるグループ統括事業・投資育成事業・事業開発事業等業績数値であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△178,447千円には、全社費用△264,415千円、その他の調整額85,967千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、Thanaban Co.,Ltd. の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「ファイナンス事業」のセグメント資産が5,003,785千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

ファイナンス事業において、Thanaban Co.,Ltd. の株式を新規取得いたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては140,446千円であります。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 Thanaban Co.,Ltd.

事業の内容 ファイナンス事業

② 企業結合を行った主な理由

平成24年3月に発表したARFC (ASEAN Regional Finance Company) Visionに基づき、高収益事業モデルをASEAN全域にて拡大し、事業の国際展開を進めている一方、農機具リースへの参入など新しい分野に進出して事業ポートフォリオを拡大してまいりました。今回の企業結合により、この方針をさらに一気に押し進めるために行ったものであります。

③ 企業結合日

平成26年7月2日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

結合後企業の名称に変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

株式取得直前に所有していた議決権比率 0%

企業結合日に取得した議決権比率 100%

取得後の議決権比率 100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社連結子会社のGroup Lease PCL.、Group Lease Holdings PTE. LTD. 及びGL Finance PLC. が現金を対価としてThanaban Co.,Ltd. の株式を100%取得したため。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年7月1日から平成26年9月30日まで

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

| | | |
|------------|-----------|-------------|
| 取得の対価 | 現金 | 1,958,494千円 |
| 取得に直接要した費用 | アドバイザー費用等 | 一千円 |
| 取得原価 | | 1,958,494千円 |

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん

140,446千円

② 発生原因

主として今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

③ 償却方法及び償却期間

20年間にわたる均等償却